



気仙沼 さくらプロジェクト



～ 現地のボランティア活動を応援します ～

未だ多くの課題を抱える被災地。一人でも多くの方の心に「幸せの桜の花」が咲くことを願い、NPOユニ*オランダから気仙沼の今日と明日を応援します。小さなこと、出来る事から、貴方の心を形にして一緒に気仙沼に届けませんか？

*NPOユニ(www.npouni.net)は日本の浄土宗和田寺(タオサンガ)が運営主体ですが現在世界8カ国に広がっています。「全ての人と与え合う日を夢見て」という願いを胸に国内外で様々な支援活動を展開、気仙沼では震災直後からの物資支援に続2013年から指圧施術も行っています。

仮設住宅：2015年に漸く362戸の災害公営住宅が完成したものの、現在も90団地3466戸の仮設住宅があり、家財家族を失った方々が住んでいます。1家族に4畳半が二つという手狭な上に断熱、湿気や防音に問題が多く、長期に住むには極度の身体的・精神的負担が強いられています。このような厳しい状況の中で皆が助け合いながら新しい道を探っています。活動内容の詳細はこのフライヤー裏面、2013年のクリスマスの現地訪問の報告書はwww.izumi.nl/documentenでご覧下さい。



支援金は直接現地の方へ

ボランティア及び支援コーディネーターさんの主な活動内容は、大変需要の高い医療ボランティアの取り付けと車での移動支援(多くはお年寄り)。それと日本各地からくる多種多様なボランティアの受け入れとコーディネートからなっています(裏面参照)。そしてご自身被災者でありながら、365日市内を走り回っておられます。気仙沼市では不可欠な活動でありストップすると困る方々が沢山出て来るのですが、活動の経済的基盤が弱いので存続が危ぶまれています。活動費の大半は交通費と電話代で、私たちは**ガソリン代支援**から始めます。支援を受ける方々が真に豊かで幸福になるには、又一人でも多くの方が現地で「与える人」になるにはどうしたらよいかも考えつつ現地の復興を応援していきたいと思えます。

例えば2,5€(約344円)で4人の方を病院までお連れでき、約6€(827円)で1日のガソリン代をカバー。頂いた支援金は年に数回コーディネーターさんの銀行口座に振り込まれます。多くの方と気仙沼を心で結びたいと思えます。チャリティイベントも行っています。

オランダからの支援金は ～ 金額、頻度自由。振込時 Sakura project と明記して下さい。～

振込先：Stichting Amida-centrum NL76 Trio 0390471976 te Noord-Scharwoude

Facebook<Kesennuma Sakura project><https://goo.gl/fpytZ1>でチャリティイベントのお知らせや活動報告等を掲載しています。

担当：玉本三和 email: tao.sangha.nl@gmail.com

コーディネーターさんの医療支援 HP <http://kaban.net/shie/2409/>

FB ページは <https://goo.gl/Fd1102> こちらでは毎日現地からの活動と情報を発信されています。是非ご覧ください！

「君の心へ桜は咲く」、ローマ在住の日本人小学生が贈ったこの手作りのクリスマスカードがプロジェクトのネーミングになりました。



活動内容詳細

1. 支援活動の内容とその内訳

仮設住宅住民の方への月一回定期医療支援が全体の70-80%で中心的活動。それ以外は様々な(パラ)メディカルや文化的支援イベント等、仮設住民の方向けの福祉活動の組織及びコーディネート。

2. 定期医療支援の内容

月一回の仮設住宅医療支援：実施場所：牧沢テニスコート住宅（56戸）、南最知住宅（55戸）、水梨住宅（80戸）の3箇所で計191戸（住民数合計約293人）。ここには主に高齢者、それも家財と家族全てを失った方が多く住んでいます。仮設住宅は住環境が極度に劣悪なため長期居住による体調の悪化が著しい。牧沢住宅は特に郊外の公共交通機関が行き届いていない場所にあり車の無い住民は通院も困難。（タクシーでは片道5000円）その為医療支援、移動支援（下参照）が必要。

市は厳しい財政状況と「平等性の原理」から福祉バスを走らすなどの必要な政策は出せないまま。

医者、看護婦、理学療法士、セラピスト（整体、鍼、指圧、マッサージ等）気仙沼市医師会の許可を得て必要な場合に限り漢方薬や痛み止めを処方。セラピストは施術を、看護婦は血圧を測ったり健康相談も随時行う。関東、関西方面からボランティアスタッフが来訪。

月3回の医療相談支援：実施場所：市内40箇所の仮設住宅（市内全体で2016年1月1日現在90箇所、3,466戸）。地元の市立本吉病院の医師、看護婦が訪問。1回につき医者2人（時には看護婦さんも）午後から来て相談を受ける。重症で集会所に出来ない住民には訪問。診療はせず相談のみ。医療行為ざりざりのところまでフォロー。必要な場合は出来るだけ病院診療（有料）につないでいる。

仮設住民の方への個別訪問：震災の精神的ショックや体調の悪さ、新しい（劣悪な）環境に対応できないため、うつや認知症あるいは閉じこもりが多数。その為医療チームの支援の活動間に出来るだけ個別訪問をし、被災者の本当の支援のニーズを吸い上げることが活動のベース。独居のため症状が悪化し救急車で運ばれたり定期的に孤独死も出ているという厳しい現実がある。

牧沢住宅（高齢者率約70%）の通院の移動支援：毎週水曜日4人乗り軽自動車で活動。市立元吉病院への移動支援。市中心から離れた仮設で、独居、車がないお年寄りが集中している。バス停も上り下りのきつい道を歩いて1,5キロ先なので足腰の問題の多いお年寄りにはバス利用不可能の人が多。

3. (パラ)メディカル、文化イベントその他等支援のコーディネート

個人の医者、セラピスト、一般ボランティア、音楽療法、料理教室、コンサート等々不定期にあるオファーを一番適すると思われる仮設住宅に提案し実施。また生活上起こる様々な問題のサポート。例としては法律相談、住宅・設備の問題等を担当部署あるいはボランティアさんに繋ぐ等

活動を支える人たち：コーディネータさんだけでなく、訪問され活動されている上記の方がたは全てボランティアベース。仮設住宅に取り残される人々の状況を憂慮し、気仙沼で「ミスター仮設」というニックネームがついているこのコーディネータさんの無私の活動に共感し協力したいという方々です。

その一方でここまで無私で活動する人は稀なため無理解に直面することもしばしば。フェイスブックでは沢山の発信をしているが地元では出来る限り目立たないよう活動しているとのこと。

「ミスター仮設」さんの活動について：<http://goo.gl/1Vdg0g>「被災弱者」岡田広行（岩波新書）2015年2月に出た新刊で、1章まるごとMさんに密着取材した結果でてきた問題点を扱っています。



4. 今後の活動ビジョン：Mさん曰く「定款等で活動内容が規定されているNPOと対照的に、個人活動の利点は常に流動する状況や問題に柔軟・敏速に対応できること。このような形の活動も真に必要なとされている支援であるという現場での経験から個人活動への理解を求めていきたい」。

支援対象の多くが心身を病む、経済的に困難な方々、その多くが高齢者で、自立への道は大変厳しいもの。

彼らに共感と励ましをもって寄り添いながら出来る支援の手を差し伸べていくことは大切だと思います。海外在住の人間として「もし自分の親がそこにいたら何が出来るだろう」という視点で資金の支援を続けていきます。このような思いに共感して頂けるなら望外の幸いです。